

# ユーザーズマニュアル

## ■ はじめに

このたびは弊社製品 自動印刷をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

(以下、「自動印刷」を「本製品」と呼び、ご説明して参ります。)

本製品は、帳票設計ツールを使って作成した帳票定義ファイル(DEF)を使用し、帳票定義ファイルと監視フォルダに投入したCSV/TABデータと連動して高精度に印刷/プレビューを自動実行するプログラムです。

本書は、基本的な操作方法、注意点などについて記載しております。ご使用の際にお読みください。

なお、表示画面などは操作の一例として掲載しているものです。お客様のご使用環境によっては、画面に表示される内容が異なる場合がありますので、ご了承ください。

## ■ 著作権／ご注意

- ・本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・本書の内容の一部または全部を無断で複製転載することを禁じます。
- ・本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。

本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれ、乱丁、落丁などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

Copyright (C) 2014 JB Advanced Technology Corporation. All Rights Reserved.

## ■ 本書の表記方法について

|   |   |
|---|---|
|  | ハードウェアやソフトウェアの損害やエラーの発生を防止するために、必ず守っていただきたい情報を記載しています。          |
|  | 特定のテーマに関する補足情報を記載しています。   |
| メニュー、アイコン、ボタン、ウィンドウ、タブ  | [ ]で囲んで表記します。<br>(例)[OK]ボタンをクリックします。                            |
| キーボード上のキー   | <>で囲んで表記します。<br>(例)キーボードの<Tab>キーを押します。                          |
| 参照先   | 章、節、項は『』、見出しは「」で囲んで表記します。<br>(例)『2章 1 ログインとログアウト』(P8)を参照してください。 |

## 目次

# 第1章 システム概要

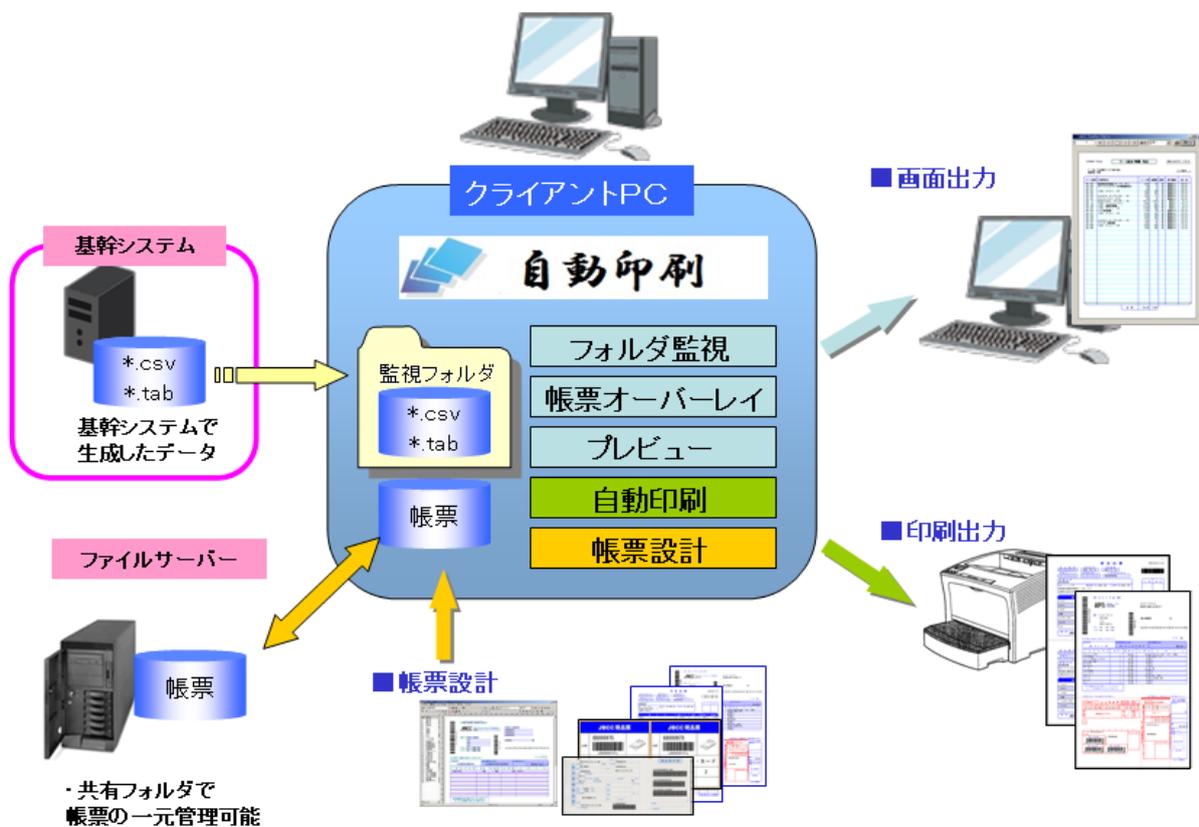
# 1.1 自動印刷とは

## 1.1.1 システム概要

本製品は、業務に共通して必要となる「帳票」の作成や仕組みを共有し、全社的に帳票発行の業務を効率化することで、お客さま企業のTCO削減を目指すことを目的とした製品です。

別売の帳票設計ツールによって作成した帳票定義ファイルを使用し、クライアント毎に帳票を直接印刷、または画面でプレビューすることを選択・設定でき、常に利用者が一番使いやすい帳票出力環境を保つことができます。

又、作業に合わせてあらかじめ設定した出力方法とは別に、印刷とプレビューを使い分ける柔軟な運用も可能です。



### 1.1.2 ご使用になる前に

本製品を使用するにあたり、帳票設計ツール(別売)によって作成した帳票定義ファイル、作成した帳票定義ファイルに埋め込むデータを、CSVもしくはTAB区切り形式に成形したファイルの印刷データを、事前に作成しておく必要があります。

これらの帳票定義ファイルと印刷データの紐付けや、印刷データを投入するフォルダ(監視フォルダ)、プリンタの指定等の設定を本製品の設定画面により行い、設定した監視フォルダへ印刷データを投入することにより、設定内容を反映した出力処理を行います。



・印刷データには、必ず正しい拡張子を付けてください。

例) CSV形式: Sampleファイル.csv

TAB形式: Sampleファイル.tab

・印刷データの最大ファイルサイズは256MByteです。

・印刷データ内の1レコードの最大サイズは32KByteです。

・印刷データ内の1項目の最大サイズは8KByteです。

・印刷データの最大レコード数は最大99,999レコードです。

・投入された印刷データの出力順番は保障できません。ご注意ください。

投入された印刷データは、処理が完了すると削除します。前のデータが削除されたことを確認して、次のデータを投入してください。

・コマンド連携設定、定義印刷設定の監視フォルダ・データ定義フォルダにはネットワークドライブを指定することはできません。

・複写紙モードでの印刷の場合、帳票定義ファイルの各フォームで設定したプリンタ情報は使用しません。

・コマンド連携の場合、Unicodeタイプの印刷データには、必ずBOM(ファイルタイプの識別子)を付けてください。

### 1.1.3 帳票定義ファイルタイプについて

本製品は、下記2種類の帳票定義ファイル(DEFファイル)を操作します。

#### ・ Unicode帳票定義ファイル

さまざまな文字を使用することができます。海外で使用可能な帳票も作成できます。

下記の製品で作成された帳票定義ファイル、またはデータ定義ファイルのことです。

- ・帳票印刷 帳票設計 Unicodeモードで作成した帳票定義ファイル
- ・PrintPro 2.0 帳票設計 Unicodeモードで作成した帳票定義ファイル
- ・PrintPro Designer 2.0 Flex Version 1.xで作成したデータ定義ファイル
- ・PrintPro for Designer Unicode版 Version 3.xxUで作成したデータ定義ファイル

Unicode帳票定義ファイルでは、Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することができます。

Shift-JISのデータ、あるいはファイルを使用して印刷することはできません。

#### ・ Shift-JIS帳票定義ファイル

下記の製品で作成された帳票定義ファイル、またはデータ定義ファイルのことです。

- ・帳票印刷 帳票設計 Shift-JISモードで作成した帳票定義ファイル
- ・PrintPro 2.0 帳票設計 Shift-JISモードで作成した帳票定義ファイル
- ・PrintPro for Designer Version 2.xで作成したデータ定義ファイル
- ・PrintPro for Designer Version 3.xで作成したデータ定義ファイル

Shift-JIS帳票定義ファイルでは、Shift-JISのデータ、あるいはファイルを使用して印刷することができます。Unicode Little Endian、Unicode Big Endian、UTF-8のデータ、あるいはファイルを使用して印刷することはできません。

## 1.2 機能の概要

本製品は、お客様にて作成された「データファイル」が、登録したフォルダに投入されることを定期的に監視します。データファイルが投入されたことを検知したとき、帳票設計ツール(別売)で作成した「帳票定義ファイル(DEFファイル)」内の定形フォームとデータを合成して、帳票を印刷したり、画面上でプレビューするソフトウェアです。

自動印刷指示の設定を外部／内部のどちらからでも指定することができる自動印刷設定の指示機能があり、外部からの印刷データ内に自動印刷設定を指示し印刷を行う機能をコマンド連携印刷、内部の設定画面より登録して印刷を行う機能を定義印刷と呼びます。

### 1.2.1 定義印刷

定義印刷とは本製品を導入したクライアント毎に独自の自動印刷指示設定を作成することができ、その設定を使用した印刷処理を行う機能です。

### 1.2.2 コマンド連携印刷

コマンド連携印刷とは印刷データの1行目に印刷指示コマンドと呼ぶ自動印刷設定を記載し、その印刷指示コマンドに従い印刷処理を行う機能です。

印刷データの作成時に、どの帳票定義ファイルを使用して、どのような改ページ設定で、何部印刷するといった設定を指定することが可能となります。



- ・各機能の設定方法につきましては、『第2章』を参照して下さい。
- ・印刷指示コマンドとは、どのような印刷処理を行うのかを指定したコマンドとなっております。詳細につきましては『第3章』を参照して下さい。

## 1.3 起動と停止

ここでは本製品の起動方法及び停止方法について説明いたします。

### 1.3.1 起動

以下の方法で、本製品を起動することができます。(デフォルト設定を使用したインストール時のケースです。)

1、[ スタート ] メニューから[ すべてのプログラム ]-[ xxxxxx ]-[ 自動印刷 ]-[ xxxxxx 自動印刷 ]を選択します。



2、[ タスクトレイ ]に本製品のアイコンが表示されます。

マウス動作にて<右クリック>、使用したいモードを選択して<左クリック>して下さい。



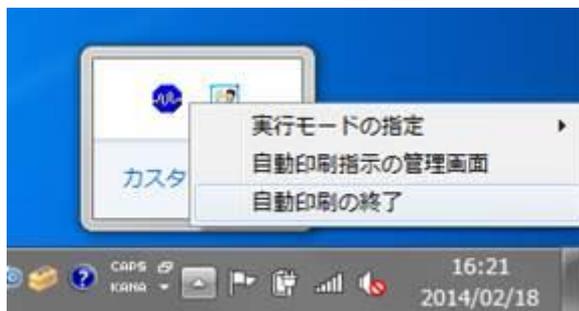
各モードの説明につきましては、『2.4.1.1.2 印刷設定』の【実行モード】を参照して下さい。

### 1.3.2 停止

本製品の停止方法としては2通りあり、以下に方法を記載します。

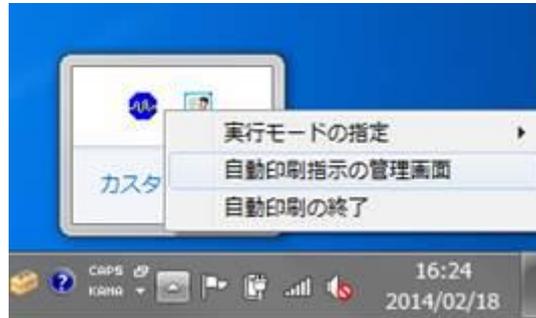
#### パターン① [タスクトレイ]からの停止

[タスクトレイ]に表示されている本製品のアイコンをマウス動作にて<右クリック>-[自動印刷の終了]を選択し<左クリック>して下さい。

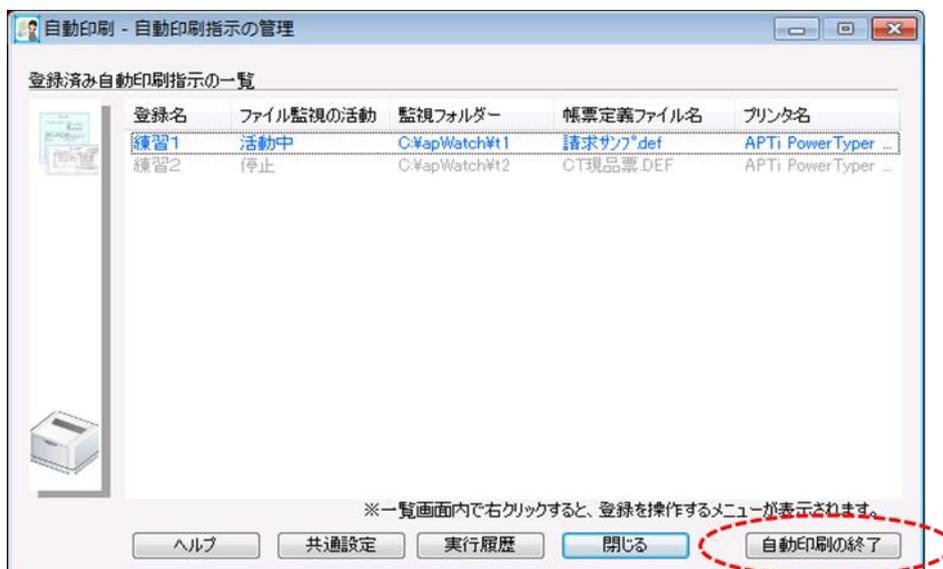


### パターン② [ 設定画面 ]からの停止

- 1、[ タスクトレイ ]に表示されている本製品のアイコンをマウス動作にて<右クリック> - [ 自動印刷指示の管理 ]画面を選択し<左クリック>して下さい。

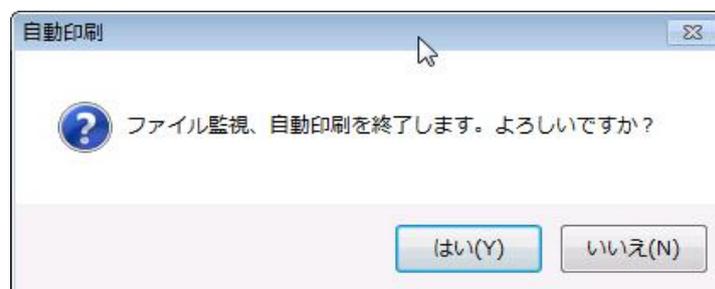


- 2、表示された[ 自動印刷指示の管理 ]画面内の[ 自動印刷の終了 ]を<左クリック>して下さい。



ファイル監視機能も含めて、全ての機能が終了します。

- 3、[ 終了の確認 ]画面が表示されますので、[ はい ]を<左クリック>して下さい。



## 第2章 機能説明

## 2. 1 基本動作

---

本章にて『1. 2 機能の概要』にて説明した定義印刷／コマンド連携印刷の基本動作を説明します。

### 2. 1. 1 事前準備

本製品を動作させるためには、事前に帳票設計ツールにて作成した帳票定義ファイルと、カンマやタブコードで印刷項目を区切った印刷データを準備しておく必要があります。

### 2. 1. 2 基本動作手順

本製品の基本的な印刷を行うための動作手順を以下に説明します。

#### 手順①：本製品の起動

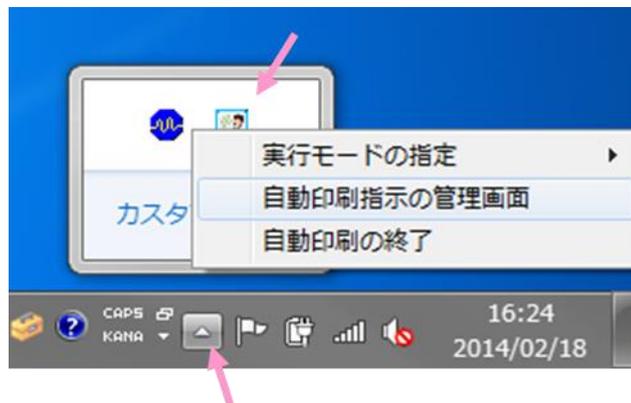


本製品の起動に関しては『1. 3. 1 起動』を参照してください。

---

#### 手順②：設定画面の表示

デスクトップ画面右下[タスクトレイ]の本製品アイコンを<右クリック>-[自動印刷指示の管理]画面を選択し、本製品の管理画面を表示させます。

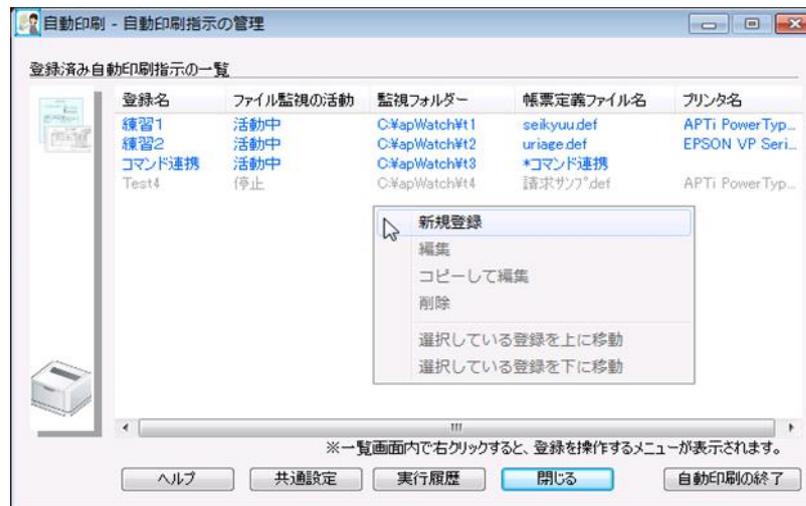


自動印刷指示の登録がひとつも無い場合、起動と同時に[自動印刷指示の管理]画面が表示されます。

---

### 手順 ③ : 自動印刷指示の登録を行う

一覧画面内でマウスを右クリックすると、メニューが表示されます。[新規登録]を選択して自動印刷指示の登録画面を表示し各種設定を行います。登録完了後、一覧画面でファイル監視が「活動中」であることを確認します。



詳細な[自動印刷指示の登録]に関して『2.4 自動印刷指示の登録』を参照してください。

### 手順 ④ : 印刷データの投入

手順③にて指定した[監視対象フォルダー]に別途作製した印刷データ[監視対象ファイル]を投入します。

### 手順 ⑤ : 印刷

指定した[実行モード]の出力結果が得られます。

## 2.2 タスクトレイメニュー

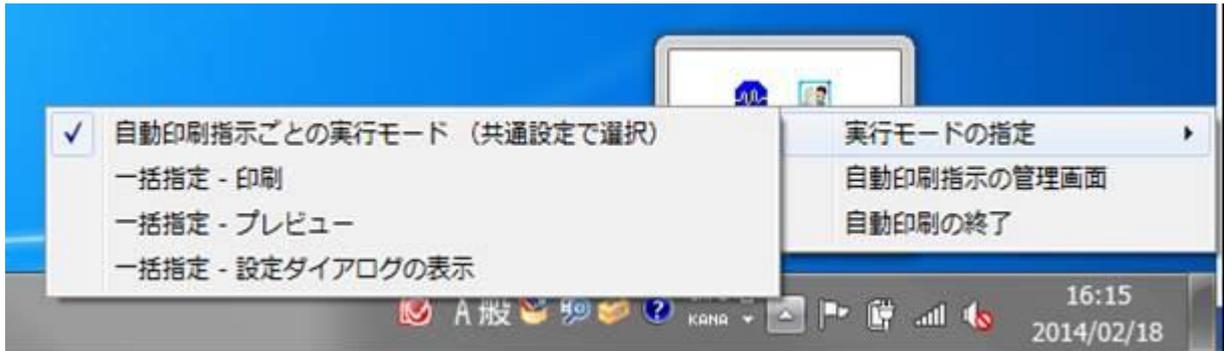
デスクトップ画面右下のタスクトレイにある、自動印刷アイコン上で操作できるメニューに関する説明を行います。

### 2.2.1 自動印刷アイコン上の動作

自動印刷アイコン上で、マウスの右ボタンを<シングルクリック>するとメニューが表示されます。

マウスの左ボタンを<ダブルクリック>すると[自動印刷指示の管理]画面が表示されます。

[自動印刷指示の管理]画面が表示されているとき、タスクトレイメニューは表示されません。



### 2.2.2 メニューの説明

自動印刷アイコン上で、マウスの右ボタンを<シングルクリック>した時に表示されるメニューについて説明します。

#### 2.2.2.1 実行モードの指定

監視フォルダ上に印刷データを検知したとき動作する方法を指定します。現在選択されているモードは、左端のチェックマークで現します。個々の自動印刷指示登録ごとに[実行モード]の指定がありますが、ここでは全ての登録に対して一括して指定することができます。

後述する[共通設定]-[実行モード]で起動時の初期値を設定します。『(共通設定で選択)』の表示のあるモード以外を選択した場合、本プログラムを再度起動したときには初期値に戻ります。

|                   |   |
|-------------------|---|
| 自動印刷指示ごとの実行モード    | 個々の「自動印刷指示の登録」で指定した実行モードで動作します。           |
| 一括指定 - 印刷         | 全ての「自動印刷指示の登録」が、[印刷]の実行モードで動作します。         |
| 一括指定 - プレビュー      | 全ての「自動印刷指示の登録」が、[プレビュー]の実行モードで動作します。      |
| 一括指定 - 設定ダイアログの表示 | 全ての「自動印刷指示の登録」が、[設定ダイアログの表示]の実行モードで動作します。 |

#### 2.2.2.2 自動印刷指示の管理画面

自動印刷指示の登録などの操作、共通設定、実行履歴などをおこなう管理画面を表示します。

#### 2.2.2.3 自動印刷の終了

本プログラムの、全ての動作を終了します。

## 2.3 自動印刷指示の管理画面

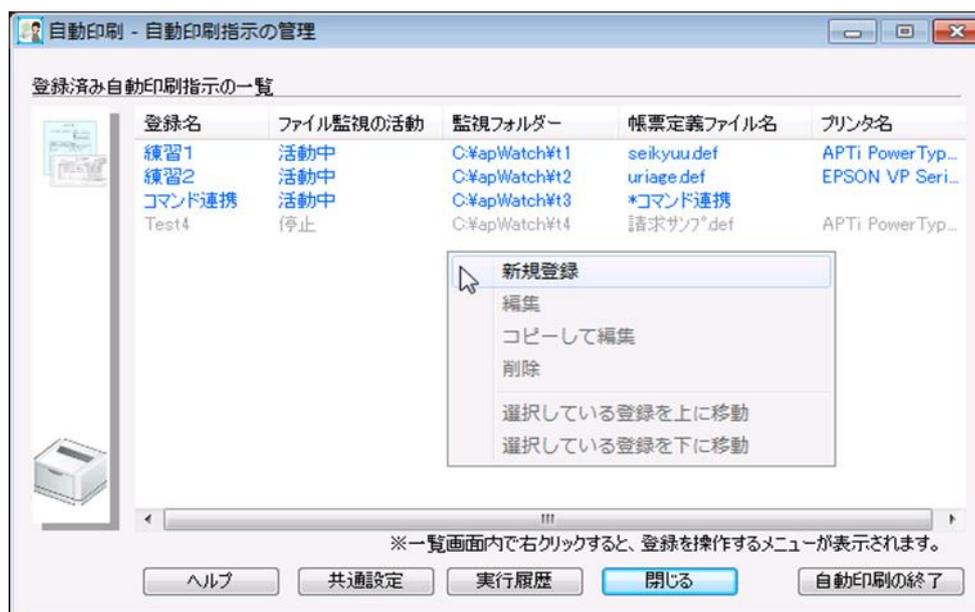
自動印刷指示の管理画面に関する説明を行います。

### 2.3.1 登録済み自動印刷指示の一覧の説明

リスト形式で自動印刷指示の登録状況を一覧できます。

青色文字で表示しているものがファイル監視活動中の自動印刷指示です。灰色文字で表示しているものがファイル監視を停止している自動印刷指示です。

マウスの右ボタンを<クリック>すると、自動印刷指示を操作するメニューが表示されます。



#### 2.3.1.1 メニューの説明

「登録済み自動印刷指示の一覧」画面上で、マウスの右ボタンを<クリック>した時に表示されるメニューを説明します。

|               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 新規登録          | 新規の自動印刷指示を作成して登録します。         |
| 編集            | 選択している自動印刷指示を編集します。          |
| コピーして編集       | 選択している自動印刷指示を元にして編集します。      |
| 削除            | 選択している自動印刷指示を削除します。          |
| 選択している登録を上に移動 | 選択している自動印刷指示の表示位置を1つ上に移動します。 |
| 選択している登録を下に移動 | 選択している自動印刷指示の表示位置を1つ下に移動します。 |



「登録済み自動印刷指示の一覧」画面上の並び順でファイル監視動作を実行します。

## 2. 3. 2 ヘルプボタン

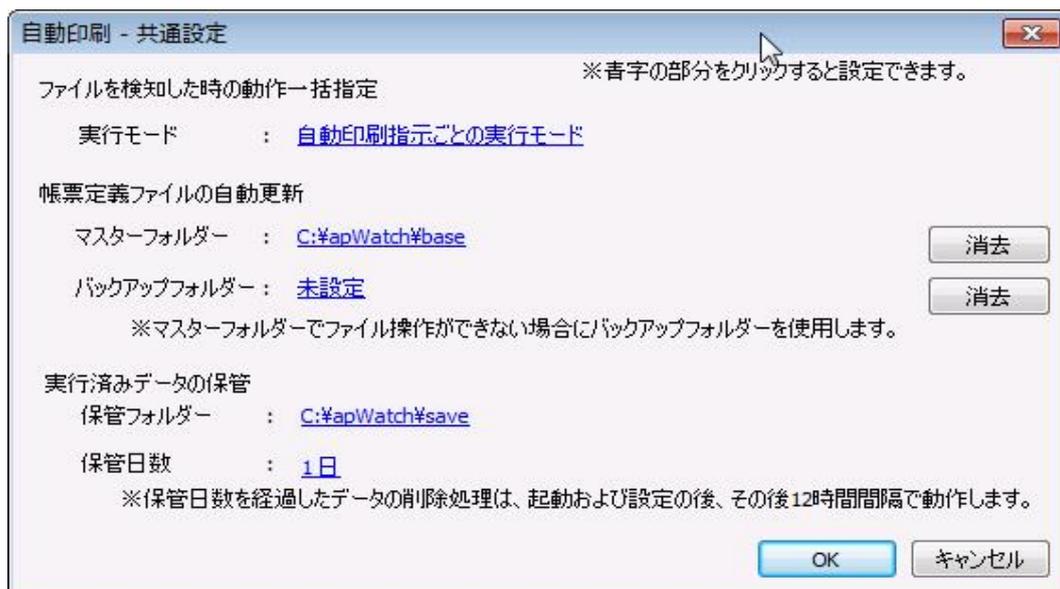
本プログラムのバージョン情報の確認、ユーザーズマニュアルの閲覧ができます。



< [ユーザーズマニュアルの表示](#) >をクリックすると、自動印刷のユーザーズマニュアルをブラウザ上に表示します。

## 2. 3. 3 共通設定ボタン

本プログラム上で共通の設定項目を変更、確認します。

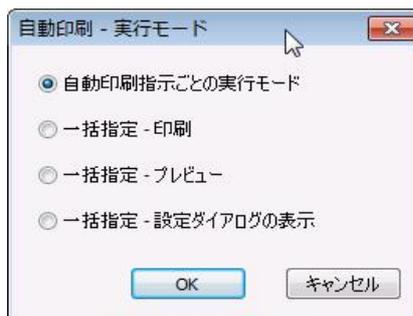


### 2. 3. 1. 1 共通設定項目の説明

共通設定内の各項目を説明します。

#### ファイルを検知したときの動作一括指定

実行モードの初期値を選択します。青字の部分をクリックすると以下のダイアログが表示されます。



|                   |   |
|-------------------|---|
| 自動印刷指示ごとの実行モード    | 個々の「自動印刷指示の登録」で指定した実行モードで動作します。           |
| 一括指定 - 印刷         | 全ての「自動印刷指示の登録」が、[印刷]の実行モードで動作します。         |
| 一括指定 - プレビュー      | 全ての「自動印刷指示の登録」が、[プレビュー]の実行モードで動作します。      |
| 一括指定 - 設定ダイアログの表示 | 全ての「自動印刷指示の登録」が、[設定ダイアログの表示]の実行モードで動作します。 |

### 帳票定義ファイルの自動更新

帳票定義ファイルが保存されているフォルダーを指定します。

設定したフォルダー内に最新の帳票定義ファイルが配置された場合、出力処理時に、指定されたフォルダから最新の帳票定義ファイルを参照して、以前に取得した帳票定義ファイルを更新して出力処理を行います。

配置する帳票定義ファイルは、帳票設計ツールの「ダウンロードファイルの作成」を使って作成します。「ダウンロードファイルの作成」をおこなう時のパラメータ[圧縮]は、<なし>を選択してください。

|             |  |
|-------------|--|
| マスターフォルダー   | 最新の帳票定義ファイルを保管するフォルダー、を指定します。<br>ここで設定したフォルダーは[バックアップフォルダー]よりも先に参照を行います。<br>[消去]ボタンで設定が消され、<未設定>となります。                 |
| バックアップフォルダー | 最新の帳票定義ファイルを保管するフォルダーの予備を指定します。<br>[マスターフォルダー]でダウンロードファイル进行操作できない場合に、ここで指定したフォルダーを参照します。<br>[消去]ボタンで設定が消され、<未設定>となります。 |

### 実行済みデータの保管

自動印刷処理が完了した印刷データを、保管する指定を行います。

|         |   |
|---------|---|
| 保管フォルダー | 全ての自動印刷指示で、実行した印刷データを保管する、フォルダーを指定します。<br>同じファイル名が存在した場合は、ファイル名に実行日時を付加して保管します。   |
| 保管日数    | 保管日数を指定します。<br>青字の部分をクリックすると以下のダイアログが表示されます。<br><br>0日と指定した場合は、保管処理をおこないません。<br>999日と指定した場合は、無期限で保管します。<br>印刷頻度と保管ディスクの容量を考慮して指定してください。 |

## OKボタン

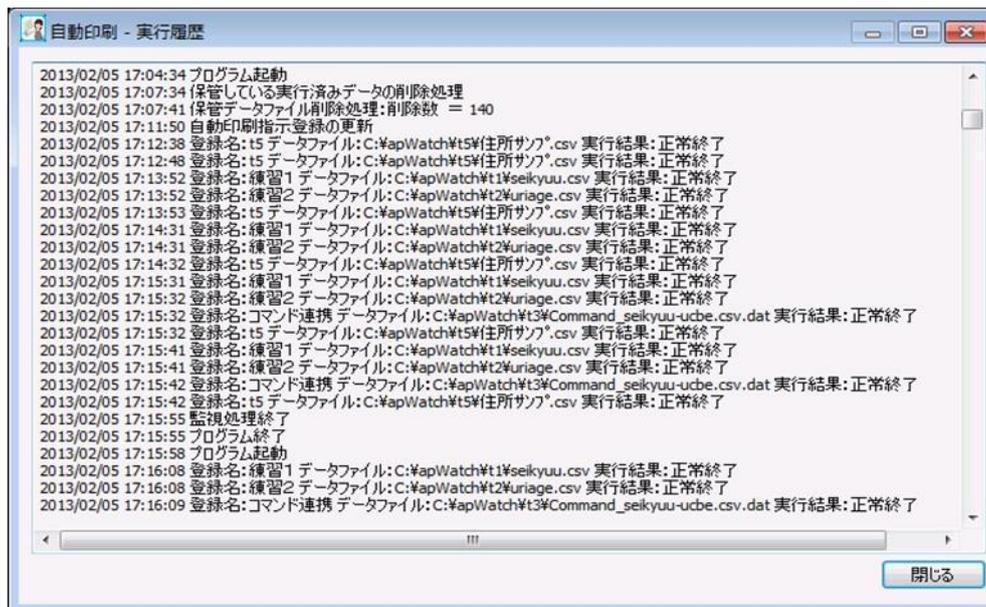
設定を保存してダイアログを閉じます。

## キャンセルボタン

設定を保存せずにダイアログを閉じます。

## 2. 3. 4 実行履歴ボタン

自動印刷の実行履歴、操作の履歴などを表示します。



印刷の実行履歴には、日時、登録名、データファイル名、実行結果を表示します。

実行結果のエラーコードの内容は、後述のエラーコード表を参照してください。

およそ2Mバイトサイズの履歴ファイルを10ファイルまで保管しています。

履歴ファイルの保管場所

WindowsXPの場合

C:\Documents and Settings\%ログインユーザ%\Local Settings\Application Data\PrintPro 2.0\AutoPrint\%log

WindowsVista／7／8の場合

C:\Users\%ログインユーザ%\AppData\Local\PrintPro 2.0\AutoPrint\%log

過去の実行履歴ファイルは、メモ帳などで閲覧することができます。

## 2. 3. 5 閉じるボタン

自動印刷指示の管理画面を閉じます。閉じた後は、デスクトップ画面右下、タスクトレイの自動印刷アイコンから操作してください。

## 2. 3. 6 自動印刷の終了ボタン

ファイル監視処理、自動印刷プログラムを終了します。

## 2.4 自動印刷指示の登録/編集画面

自動印刷指示の登録編集画面関わる説明を行います。

[登録済み自動印刷指示の一覧]で<新規登録>や<編集>を実行すると表示されます。

### 2.4.1 登録内容の説明

自動印刷をおこなうための各設定を登録します。

まずは自動印刷指示の登録名を入力します。全体で唯一の登録名にする必要があります。

自動印刷 - 自動印刷指示の登録/編集

登録名  
練習1

ファイル監視の指定 ※青字の部分をクリックすると設定できます。  
CSV TAB  
ファイル監視 :  活動  停止  
監視対象フォルダー : C:\ap\Watch\%t1  
監視対象ファイル : \*.\*

帳票出力の指定  
帳票定義ファイル : C:\Users\ibatSoftware\Documents\PrintPro 2.0\AutoPrint\sample\seikyuu\seikyuu.def  
データファイル形式 : カンマ区切り, タイトル行あり, Unicode  
印刷時の改ページ : 通常 - データが明細範囲からあふれた時に改ページ  
印刷時に使用するフォーム : フォーム [請求書] を使用し, 明細あふれによる改ページではその次の定義フォームを使用  
印刷中の確認操作 : 確認操作を行わない

出力に使用するプリンターの指定  
プリンター名 : APTI PowerTyper S1000 [A4][自動選択][縦]  
印刷範囲 / 部数 : 全ページ, 1部, ラベル開始位置 1  
印刷位置調整 : 印刷位置調整 無し  
印刷拡大縮小率 : 100 %

ファイルを検知した時の動作指定  
実行モード :  印刷  プレビュー  設定ダイアログの表示  
※タスクトレイメニューの実行モードの指定が「自動印刷指示ごとの実行モード」の時に有効

コマンド連携 : 印刷パラメータを印刷データ内に付加して実行するモード  
コマンド連携 :  有効  
帳票定義ファイル参照フォルダー : \*未設定\*

OK キャンセル

#### 2.4.1.1 ファイル監視の指定

|           |   |
|-----------|---|
| ファイル監視    | 登録している自動印刷指示を活動中にするか、停止するかを選択します。   |
| 監視対象フォルダー | 印刷データを投入するフォルダーを選択します。クリックするとフォルダー選択ダイアログが表示されます。   |
| 監視対象ファイル  | 印刷データファイル名を指定します。<br>空白のままにすると監視対象フォルダー内の全てのファイルを対象とする“*.*”が指定されます。“*.csv”、“*.tab”、“PRINT_???.*”などのワイルドカードを指定することができます。 |



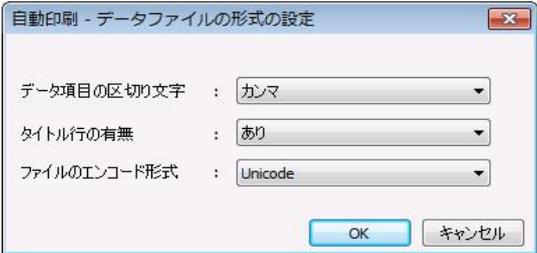
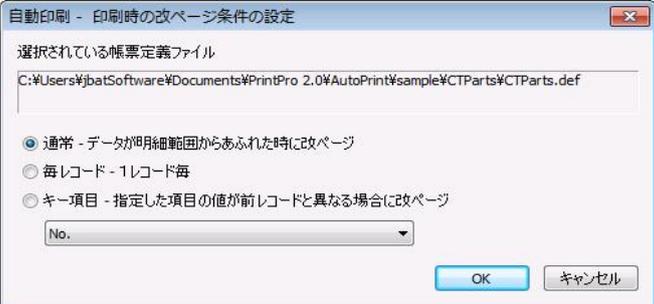
他の登録と同じく<監視対象フォルダー>を指定する場合は、<監視対象ファイル>の指定で重複しないように設定する必要があります。重複した場合、タイミングによってど

の登録で印刷されるか、わからなくなってしまう。

<監視対象フォルダー>は、本製品導入PC内の、本製品の起動ユーザーがフルコントロール可能なフォルダを指定して下さい。

投入した印刷データは処理後、自動的に削除されます。

## 2.4.1.2 帳票出力の指定

| 帳票定義ファイル           | 印刷対象の帳票定義ファイル(DEFファイル)を指定します。事前に「帳票設計」ツールで作成する必要があります。クリックすると、ファイル選択ダイアログを表示します。   |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
|--------------------|--|----|----|------|-----------------------------|---------|--------------------|--------------------|--|-------|---------|
| データファイル形式          | <p>印刷データファイルの形式を指定します。クリックすると以下のダイアログを表示します。</p>  <p><b>データ項目の区切り文字</b><br/>データの項目と項目の間を区切る文字を“カンマ”もしくは“タブ”文字から選択します。</p> <p><b>タイトル行の有無</b><br/>データの先頭に各項目のタイトルを明記した行が“あり”もしくは“なし”から選択します。</p> <p><b>ファイルのエンコード形式</b><br/>データファイルで使用するエンコード(文字コード)形式を以下の4つから選択します。</p> <table border="1" data-bbox="646 1227 1273 1429"> <thead> <tr> <th>設定</th> <th>意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SJIS</td> <td>シフトJIS形式</td> </tr> <tr> <td>Unicode</td> <td>UTF-16 リトルエンディアン形式</td> </tr> <tr> <td>Unicode big endian</td> <td>UTF-16 ビッグエンディアン形式</td> </tr> <tr> <td>UTF-8</td> <td>UTF-8形式</td> </tr> </tbody> </table> | 設定 | 意味 | SJIS | シフトJIS形式                    | Unicode | UTF-16 リトルエンディアン形式 | Unicode big endian | UTF-16 ビッグエンディアン形式   | UTF-8 | UTF-8形式 |
| 設定                 | 意味   |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| SJIS               | シフトJIS形式   |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| Unicode            | UTF-16 リトルエンディアン形式   |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| Unicode big endian | UTF-16 ビッグエンディアン形式   |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| UTF-8              | UTF-8形式  |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| 印刷時の改ページ           | <p>帳票を印刷する時に改ページする条件を指定します。クリックすると、以下のダイアログを表示します。</p>  <table border="1" data-bbox="566 1818 1401 2033"> <thead> <tr> <th>設定</th> <th>意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常</td> <td>データが明細範囲をあふれたタイミングで改ページします。</td> </tr> <tr> <td>毎レコード</td> <td>1レコード毎に改ページします。</td> </tr> <tr> <td>キー項目</td> <td>データが明細範囲をあふれたか、指定したフィールドのデータが前レコードと異なる場合に改ページします。<br/>本項目を指定する場合、本動作の対象とするキー項目をドロ</td> </tr> </tbody> </table>   | 設定 | 意味 | 通常   | データが明細範囲をあふれたタイミングで改ページします。 | 毎レコード   | 1レコード毎に改ページします。    | キー項目               | データが明細範囲をあふれたか、指定したフィールドのデータが前レコードと異なる場合に改ページします。<br>本項目を指定する場合、本動作の対象とするキー項目をドロ |       |         |
| 設定                 | 意味   |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| 通常                 | データが明細範囲をあふれたタイミングで改ページします。  |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| 毎レコード              | 1レコード毎に改ページします。  |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |
| キー項目               | データが明細範囲をあふれたか、指定したフィールドのデータが前レコードと異なる場合に改ページします。<br>本項目を指定する場合、本動作の対象とするキー項目をドロ   |    |    |      |                             |         |                    |                    |  |       |         |

|  | <p>プダウンリストより選択します。</p>   |     |    |                    |  |          |   |  |  |                                    |   |
|--|--|-----|----|--------------------|--|----------|---|--|--|------------------------------------|---|
| <p>印刷時に使用するフォーム</p>                    | <p>帳票定義ファイル内のどのフォームを使って印刷するかを選択、またはフォームを指定する条件を指定します。クリックすると、以下のダイアログを表示します。</p> <div data-bbox="571 309 1394 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自動印刷 - 印刷時に使用するフォームの設定</p> <p>選択されている帳票定義ファイル<br/>C:\Users\j32368\Documents\PrintPro 2.0\AutoPrint\sample\CTParts\CTParts.def</p> <p><input checked="" type="radio"/> 使用するフォームを事前に指定する</p> <p>フォーム指定<br/>部品表(縦明細1列)</p> <p><input type="checkbox"/> 明細あふれによる改ページでは、上記の次に定義されているフォームを使用する</p> <p><input type="checkbox"/> 複写紙モード、使用するフォームから部数分のフォームを切替えて印刷</p> <p><input type="radio"/> 使用するフォームをデータで決定する</p> <p>フォームを決定するデータ項目</p> <p>OK キャンセル</p> </div>  |     |    |                    |  |          |   |  |  |                                    |   |
|  | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="592 882 858 904">設定値</th> <th data-bbox="863 882 1394 904">意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="592 911 858 1003">&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;</td> <td data-bbox="863 911 1394 1003"> <p>帳票定義ファイル内のフォームを選んで指定します。</p> <p>印刷は指定したフォームで印刷されます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="592 1010 858 1093">〔フォーム指定〕</td> <td data-bbox="863 1010 1394 1093"> <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合に、ドロップダウンリストからフォーム名を選択してください。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="592 1099 858 1778">〔明細あふれによる改ページでは、上記の次に定義されているフォームを使用する〕</td> <td data-bbox="863 1099 1394 1778"> <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合のオプションメニューです。</p> <p>本項目を指定すると、明細あふれによる改ページが発生した場合、帳票定義ファイル内で、上記の次に定義されているフォームが利用されます。</p> <p>ⓘ<br/>明細あふれによる改ページによって、自動的に定義の次のフォームが使われるのは、最初の一回だけです。以降、連続して明細あふれによる改ページがおきても、そのフォームが使われ続けます。</p> <p>なお、改ページ方法として”キー項目”を指定している場合、改ページには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明細あふれによる改ページ</li> <li>・”キー項目”の違いによる改ページ</li> </ul> <p>の2種類が存在します。</p> <p>上記のとおり、”次に定義された”フォームが使われるのは、明細あふれによる改ページの場合です。”キー項目”の違いによる改ページが発生した場合は、<b>最初に指定されたフォーム</b>に戻ります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="592 1785 858 2016">〔複写紙モード、使用するフォームから部数分のフォームを切替えて印刷〕</td> <td data-bbox="863 1785 1394 2016"> <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合のオプションメニューです。</p> <p>複写紙モードは、1つの印刷データで、帳票設計ファイル内の複数のフォームに印刷します。</p> <p>〔フォーム指定〕で指定したフォームから順に、「印刷範囲／部数／ラベル開始位置の設定」で指定した部数分、同じデータでフォームを切替えて印刷します。</p> </td> </tr> </tbody> </table> | 設定値 | 意味 | <使用するフォームを事前に指定する> | <p>帳票定義ファイル内のフォームを選んで指定します。</p> <p>印刷は指定したフォームで印刷されます。</p> | 〔フォーム指定〕 | <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合に、ドロップダウンリストからフォーム名を選択してください。</p> | 〔明細あふれによる改ページでは、上記の次に定義されているフォームを使用する〕 | <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合のオプションメニューです。</p> <p>本項目を指定すると、明細あふれによる改ページが発生した場合、帳票定義ファイル内で、上記の次に定義されているフォームが利用されます。</p> <p>ⓘ<br/>明細あふれによる改ページによって、自動的に定義の次のフォームが使われるのは、最初の一回だけです。以降、連続して明細あふれによる改ページがおきても、そのフォームが使われ続けます。</p> <p>なお、改ページ方法として”キー項目”を指定している場合、改ページには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明細あふれによる改ページ</li> <li>・”キー項目”の違いによる改ページ</li> </ul> <p>の2種類が存在します。</p> <p>上記のとおり、”次に定義された”フォームが使われるのは、明細あふれによる改ページの場合です。”キー項目”の違いによる改ページが発生した場合は、<b>最初に指定されたフォーム</b>に戻ります。</p> | 〔複写紙モード、使用するフォームから部数分のフォームを切替えて印刷〕 | <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合のオプションメニューです。</p> <p>複写紙モードは、1つの印刷データで、帳票設計ファイル内の複数のフォームに印刷します。</p> <p>〔フォーム指定〕で指定したフォームから順に、「印刷範囲／部数／ラベル開始位置の設定」で指定した部数分、同じデータでフォームを切替えて印刷します。</p> |
| 設定値                                    | 意味   |     |    |                    |  |          |   |  |  |                                    |   |
| <使用するフォームを事前に指定する>                     | <p>帳票定義ファイル内のフォームを選んで指定します。</p> <p>印刷は指定したフォームで印刷されます。</p>   |     |    |                    |  |          |   |  |  |                                    |   |
| 〔フォーム指定〕                               | <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合に、ドロップダウンリストからフォーム名を選択してください。</p>  |     |    |                    |  |          |   |  |  |                                    |   |
| 〔明細あふれによる改ページでは、上記の次に定義されているフォームを使用する〕 | <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合のオプションメニューです。</p> <p>本項目を指定すると、明細あふれによる改ページが発生した場合、帳票定義ファイル内で、上記の次に定義されているフォームが利用されます。</p> <p>ⓘ<br/>明細あふれによる改ページによって、自動的に定義の次のフォームが使われるのは、最初の一回だけです。以降、連続して明細あふれによる改ページがおきても、そのフォームが使われ続けます。</p> <p>なお、改ページ方法として”キー項目”を指定している場合、改ページには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明細あふれによる改ページ</li> <li>・”キー項目”の違いによる改ページ</li> </ul> <p>の2種類が存在します。</p> <p>上記のとおり、”次に定義された”フォームが使われるのは、明細あふれによる改ページの場合です。”キー項目”の違いによる改ページが発生した場合は、<b>最初に指定されたフォーム</b>に戻ります。</p>   |     |    |                    |  |          |   |  |  |                                    |   |
| 〔複写紙モード、使用するフォームから部数分のフォームを切替えて印刷〕     | <p>&lt;使用するフォームを事前に指定する&gt;を設定した場合のオプションメニューです。</p> <p>複写紙モードは、1つの印刷データで、帳票設計ファイル内の複数のフォームに印刷します。</p> <p>〔フォーム指定〕で指定したフォームから順に、「印刷範囲／部数／ラベル開始位置の設定」で指定した部数分、同じデータでフォームを切替えて印刷します。</p>  |     |    |                    |  |          |   |  |  |                                    |   |

|                 |   |  |
|-----------------|---|--|
|                 | <p>&lt;使用するフォームをデータで決定する&gt;</p>  | <p>データでフォームコードを指定して、使用するフォームを決定します。<br/>ここではフォームを決定するデータ項目を設定します。</p> <p>❗ フォームコードとは、帳票定義ファイル内のフォームに対し、帳票設計者が、設定する識別子です。</p> <p>❗ フォームの切り替わりのタイミングは改ページのタイミングです。</p> |
| <p>印刷中の確認操作</p> | <p>帳票を印刷するときの確認操作を指定します。クリックすると、以下のダイアログを表示します。</p> <div data-bbox="604 595 1362 745" data-label="Image"> </div> <p>印刷確認操作とは、印刷時に以下のダイアログが表示されます。</p> <div data-bbox="627 831 1031 981" data-label="Image"> </div> <p><b>確認操作を行わない</b><br/>停止せずに印刷を行ないます。</p> <p><b>ページの切り替わりごとに確認作業を行なう</b><br/>ページの切り替わりのタイミングで、[印刷]ボタンが押されるまで停止します。</p> <p><b>フォームの切り替わりごとに確認作業を行なう</b><br/>フォームの切り替わりのタイミングで、[印刷]ボタンが押されるまで停止します。</p> |  |

## 2. 4. 1. 3 出力に使用するプリンターの指定

帳票定義ファイルを選択した後に、それぞれの設定を行なうことができます。

プリンター名

帳票を印刷するとき使用するプリンターを指定します。クリックすると、以下のダイアログを表示します。

自動印刷 - プリンターの選択

「印刷時に使用するフォームによってプリンターを切替える」をチェックした場合、以下の「印刷時に使用するフォーム設定」で指定されているフォーム、および関連するフォームを選択して、プリンターを指定してください。

「印刷時に使用するフォームによってプリンターを切替える」をチェックしない場合、フォームにかかわらず、指定したプリンターに印刷します。

印刷時に使用するフォーム設定  
実際のデータ [得意先コード] で指定されたフォームを使用する。

印刷時に使用するフォームによってプリンターを切替える

フォーム名

プリンター名

OK キャンセル

### 「印刷時に使用するフォームによってプリンターを切替える」をチェックした場合

「印刷時に使用するフォーム」が設定されている場合に選択できます。選択されている帳票定義ファイル内のフォームによってプリンターを切替えることができます。フォーム名を選択した後、そのフォームを印刷するとき使用するプリンターを指定します。印刷データによってフォームが決定する場合は、関連するフォームすべてのプリンターを指定してください。（帳票定義ファイル内に設定を保存します。）

### 「印刷時に使用するフォームによってプリンターを切替える」をチェックしない場合

フォームにかかわらず、指定したプリンターに印刷します。（初期値）

プリンター名をクリックすると、以下のダイアログが表示されてプリンターを選択することができます。

使用するプリンタの設定

使用するプリンタ  
 通常使うプリンタ(D) APTi PowerTyper S1000 - nul  
 その他のプリンタ(E) APTi PowerTyper S1000 - nul

用紙の選択  
 用紙サイズ(Z)   
 給紙方法(S)

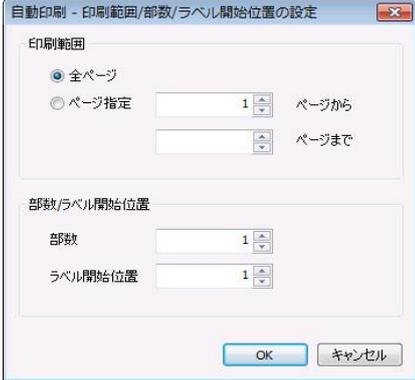
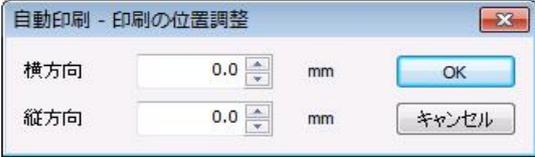
印刷の向き  
 縦(P)  横(L)

OK キャンセル

用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きも指定します。

印刷範囲/部数

印刷するページの範囲、印刷部数、ラベルフォーム印刷時の開始位置を指定します。クリックすると、以下のダイアログを表示します。

|         |   |
|---------|---|
|         |  <p>❗ 複写紙モードを指定した場合、&lt;部数&gt;をフォームの数にセットします。</p>   |
| 印刷位置調整  | <p>ページ全体の印刷位置を調整します。クリックすると、以下のダイアログを表示します。</p>  <p>プリンタ固体の違いなどによって、印刷位置がうまく合わない場合に使用します。</p> |
| 印刷拡大縮小率 | <p>印刷ページの拡大/縮小率を指定します。クリックすると、以下のダイアログを表示します。</p>    |

## 2. 4. 1. 4 ファイルを検知した時の動作の指定

実行モード

|            |                                  |
|------------|----------------------------------|
| 印刷         | ファイルを検知したときに、[印刷]を実行します。         |
| プレビュー      | ファイルを検知したときに、[プレビュー]を表示します。      |
| 設定ダイアログの表示 | ファイルを検知したときに、[設定ダイアログの表示]を行いません。 |



タスクトレイメニューの「実行モードの指定」で<自動印刷指示ごとの実行モード>を選択している時に動作する実行モードです。

## 2. 4. 1. 5 コマンド連携の指定

印刷パラメータを、印刷データ内の先頭行に記述して実行するモードです。

自動印刷 - 自動印刷指示の登録/編集

登録名  
コマンド連携01

ファイル監視の指定 ※青字の部分をクリックすると設定できます。

CSV  
TAB  
ファイル監視 :  活動  停止  
監視対象フォルダー : C:\\*apWatch\\*t4  
監視対象ファイル :

帳票出力の指定

帳票定義ファイル : \*未設定\*  
データファイル形式 : \*未設定\*  
印刷時の改ページ : \*未設定\*  
印刷時に使用するフォーム : \*未設定\*  
印刷中の確認動作 : \*未設定\*

出力に使用するプリンターの指定

プリンター名 : \*先に帳票設定を選択してください\*  
印刷範囲 / 部数 : \*先に帳票設定を選択してください\*  
印刷位置調整 : \*先に帳票設定を選択してください\*  
印刷拡大縮小率 : 100 %

ファイルを検知した時の動作指定

実行モード :  印刷  プレビュー  設定ダイアログの表示  
※タスクトレイメニューの実行モードの指定が「自動印刷指示ごとの実行モード」の時に有効

コマンド連携 : 印刷パラメータを印刷データ内に付加して実行するモード

コマンド連携 :  有効  
帳票定義ファイル参照フォルダー : C:\\*apWatch\\*def

設定をおこなうためには、\*未設定\*部分をクリックしてください。

OK キャンセル

＜コマンド連携＞の[有効]をチェックすると、「帳票出力の指定」、「出力に使用するプリンターの指定」、「ファイルを検知した時の動作指定」が指定できなくなり、各々を、後述する「印刷指示コマンド」を印刷データに記述して、実行します。

#### 帳票定義ファイル参照フォルダー

印刷指示コマンドで指定する帳票定義ファイル(DEFファイル)が保管されているフォルダーを指定します。このフォルダー内の帳票定義ファイルを参照して実行します。

「ファイル監視の指定」の＜監視対象ファイル＞は全てのファイル固定となります。＜監視対象フォルダー＞は、他の登録と競合しないようにしてください。

投入した印刷データは、実行後、自動的に削除されます。

＜帳票定義ファイル参照フォルダー＞は本製品導入PC内の、本製品の起動ユーザーがフルコントロール可能なフォルダーを指定して下さい。

コマンド連携の場合、Unicodeタイプの印刷データには、必ずBOM(ファイルタイプの識別子)を付けてください。印刷指示コマンド内のData TypeとBOM情報が一致しなければエラーとなります。



| ファイルタイプ            | BOM(ファイルタイプの識別子) |
|--------------------|------------------|
| Shift-JIS          | BOMなし            |
| Unicode            | 0xFF、0xFE        |
| Unicode big endian | 0xFE、0xFF        |
| UTF-8              | 0xEF、0xBB、0xBF   |

## 第3章 印刷指示コマンド

## 3. 1 印刷指示コマンドとは

---

印刷指示コマンドとはコマンド連携印刷を行う場合に印刷データの1行目に記載できる印刷設定情報の事であり、記載された印刷データをどの帳票定義ファイルを使用して、又どのプリンタを使用して印刷処理を行うといった設定を印刷データの作成の時に指定することが出来ます。

## 3. 2 記述方法

---

印刷指示コマンドの記述方法としましては、下記の制御文字を使用して記載します。

- 開始文字           :     /{
- 指定文字           :     =
- 区切り文字         :     ;
- 終了文字           :     }/

記載方法としては、下記のような記載方法となります。

開始文字 印刷指示コマンド=コマンド値A ; 印刷指示コマンド=コマンド値B 終了文字

### 使用例)

```
{ DEFNAME = 請求書.def ; KEYBREAK=0 }
```



- ・制御文字は半角英数を使用して下さい。
  - ・同じ印刷指示コマンドを記載した場合は後ろに記載したコマンドが有効となります。
-

## 3. 3 印刷指示コマンド

下記に使用できる印刷指示コマンドを記載します。

### 3. 3. 1 DefName

帳票定義ファイルの名称を指定します。

帳票定義ファイルの場所としては『コマンド連携設定』の[データ定義フォルダ]で指定されたフォルダ内の帳票定義ファイルとして指定されます。

| 印刷指示コマンド | 値  | 説明                       |
|----------|--|--------------------------|
| DefName  | 帳票定義ファイルのファイル名称<br>使用例)<br>DefName=請求サンプ.def | 使用する帳票定義ファイルの名称を指定して下さい。 |



注意

- ・DefNameの指定は必ず行ってください。
- ・指定可能な値は最大127文字です。

### 3. 3. 2 ServerDefFolder

帳票定義ファイルの参照フォルダを指定します。

| 印刷指示コマンド        | 値   | 説明  |
|-----------------|---|---|
| ServerDefFolder | 帳票定義ファイルの参照フォルダパス<br>使用例)<br>ServerDefFolder=c:¥AutoPrint¥def | 『2. 3. 1. 1 環境設定』の【データ定義フォルダ】と同様の設定となります。<br>詳細な情報はそちらを参照して下さい。 |



注意

- ・指定可能な値は『3. 3. 1 DefName』の値の文字数と合わせ最大127文字です。

### 3. 3. 3 Mode

出力結果を変更する実行モードを指定します。

| 印刷指示コマンド | 値                       | 説明   |
|----------|-------------------------|--|
| Mode     | 0<br>使用例)<br>Mode=0     | 印刷を行います。<br>『2. 4. 1. 1 定義設定』の印刷設定【実行モード】の[印刷]と同様の動作を行います。<br>詳細な情報はそちらを参照して下さい。           |
|          | 1                       | プレビューを行います。<br>『2. 4. 1. 1 定義設定』の印刷設定【実行モード】の[プレビュー]と同様の動作を行います。<br>詳細な情報はそちらを参照して下さい。     |
|          | 4<br>デフォルト値として設定されています。 | 設定ダイアログを行います。<br>『2. 4. 1. 1 定義設定』の印刷設定【実行モード】の[設定ダイアログ]と同様の動作を行います。<br>詳細な情報はそちらを参照して下さい。 |

### 3. 3. 4 KeyBreak

改ページ設定を指定します。

| 印刷指示コマンド | 値   | 説明  |
|----------|---|---|
| KeyBreak | -1<br>デフォルト値として設定されています。<br>使用例)<br>KeyBreak =0 | 明細行数を超えると改ページが行なわれます。<br>[2. 4. 1. 1 定義設定]の印刷設定【改ページ設定】の[通常]と同様の動作を行います。  |
|          | 0   | 1レコード毎に改ページを行います。<br>[2. 4. 1. 1 定義設定]の印刷設定【改ページ設定】の[毎レコード]と同様の動作を行います。   |
|          | 1~500   | 『3. 3. 1 DefName』で指定した帳票定義ファイルに登録されている1つ目のデータ定義項目を1とし、値で指定された番号のデータ定義項目に対応する印刷データの内容が、前のレコードの内容と不一致になった場合に改ページを行います。<br>[2. 4. 1. 1 定義設定]の印刷設定【改ページ設定】の[キー項目]と同様の動作を行います。 |

### 3. 3. 5 DataType

印刷データのファイルタイプを指定します。

| 印刷指示コマンド | 値   | 説明                              |
|----------|---|---------------------------------|
| DataType | 16<br>デフォルト値として設定されています。<br>使用例)<br>DataType=16 | 印刷データのファイルタイプがCSV形式の場合に指定します    |
|          | 17  | 印刷データのファイルタイプがTAB区切り形式の場合に指定します |



DataTypeが指定されていない場合、拡張子を使用し印刷データのファイルタイプを判別します。

CSV形式ならば \*.csv、TAB区切り形式ならば \*.txt/\*tabで判別します

### 3. 3. 6 FormLinkItem

印刷データのファイルタイプを指定します。

| 印刷指示コマンド     | 値   | 説明   |
|--------------|---|--|
| FormLinkItem | 0～500<br>デフォルト値として0が設定されてます。<br>使用例)<br>FormLinkItem =0 | 『3. 3. 8 FormSetMode』の値が1の場合に有効であり、『3. 3. 1 DefName』で指定した帳票定義ファイルのデータ項目を指定します。<br>1つ目のデータ項目を指定する場合は0となります。 |

### 3. 3. 7 SelectForm

印刷データのファイルタイプを指定します。

| 印刷指示コマンド   | 値  | 説明  |
|------------|--|---|
| SelectForm | 0～9999<br>デフォルト値として0が設定されます。<br>使用例)<br>SelectForm=0 | 『3. 3. 1 DefName』で指定した帳票定義ファイルのフォームを指定します。<br>1つ目のフォームを指定する場合は0となります。 |

### 3. 3. 8 FormSetMode

帳票定義ファイル内のフォームを自動で切換え出力する設定を指定します。

| 印刷指示コマンド    | 値  | 説明  |
|-------------|--|---|
| FormSetMode | 0<br>デフォルト値として設定されています。<br>使用例)<br>FormSetMode=0   | フォームの自動切換えを行いません。   |
|             | 1  | 『3. 3. 6 FormLinkItem』で指定されたデータ項目に紐付く印刷データの内容と一致した、帳票定義ファイルのフォームコードのフォームを指定します。   |
|             | 2  | 出力結果の1ページ目は『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームを指定し、2ページ目以降は『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームの次のフォームを指定する。<br><br>又、改ページが発生した場合は、『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームへ戻り、次ページより次のフォームへ再び切り替わります。<br><br>連番は1へ戻ります。 |
|             | 3  | 出力結果の1ページ目は『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームを指定し、2ページ目以降は『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームの次のフォームを指定する。<br><br>又、改ページが発生した場合は『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームへ戻り、次ページより次のフォームへ再び切り替わります。<br><br>連番は継続します。   |
| 11          | 『3. 3. 8 FormSetMode』で1が指定された時と同様の動作を行います <sup>が</sup> 、帳票定義ファイル内にフォームが見つからない場合は『3. 3. 7 SelectForm』で指定したフォームを指定します。 |   |

### 3. 3. 9 Title

スプールファイル名称、設定ダイアログのタイトルを指定します。

| 印刷指示コマンド | 値   | 説明  |
|----------|---|---|
| Title    | 文字列を指定します。<br><br>デフォルト値としてPrint が設定されています。<br>使用例)<br>Title=PrintPro 2.0 | スプールファイル名称として使用されます。<br><br>又、印刷時に表示される設定ダイアログのタイトルバーに表示されます。<br><br>指定できる文字数は最大31文字です。 |

### 3. 3. 10 DefPrinter

使用するプリンタの指定を行います。

| 印刷指示コマンド   | 値   | 説明  |
|------------|---|---|
| DefPrinter | 0   | 本製品導入PCで通常使用するプリンタとして設定されているプリンタを使用します。   |
|            | 1<br>デフォルト値として設定されています。<br>使用例)<br>DefPrinter=0 | 『3. 3. 1 DefName』で指定した帳票定義ファイルのフォームで指定されているプリンタを使用します。  |
|            | 2   | 『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームで指定されているプリンタを使用します。<br><br>又、『3. 3. 8 FormSetMode』でフォームの切り替えが指定された場合でも『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームで指定されているプリンタを使用します。                           |
|            | 3   | 『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームで指定されているプリンタを使用します。<br><br>又、『3. 3. 8 FormSetMode』でフォームの切り替えが指定された場合でも『3. 3. 7 SelectForm』で指定されたフォームで指定されているプリンタを使用します。<br><br>1スプールファイルで印刷を行います。 |

### 3. 3. 11 FormCheck

印刷前に、印刷するフォームの確認ダイアログ確認の指定を行います。

| 印刷指示コマンド  | 値   | 説明  |
|-----------|---|---|
| FormCheck | 0<br>デフォルト値として設定されています。<br>使用例)<br>FormCheck =0 | 印刷前の印刷するフォームの確認ダイアログ確認を行いません。   |
|           | 1   | 印刷前の印刷するフォームの確認ダイアログ確認を行います。<br><br>確認のタイミングとしては、印刷するページ毎に行います。   |
|           | 2   | 印刷前の印刷するフォームの確認ダイアログ確認を行いません。<br><br>確認のタイミングとしては、印刷に使用するフォームが変更された場合に行います。<br><br>FormSetMode=1の時にのみ使用することができます。 |
|           | -1  | 印刷前の印刷するフォームの確認ダイアログ確認を行いません。<br><br>又、表示もしません。   |

### 3. 3. 12 AdjustX

横方向の印刷位置の微調整を行います。

| 印刷指示コマンド | 値  | 説明  |
|----------|--|---|
| AdjustX  | -999～999 (0.1mm)<br>デフォルト値として0が設定されます。<br>使用例)<br>AdjustX =-30 | 横方向の印刷位置微調整値を設定します。<br>調整可能な範囲は-999～999mm となり、0.1mm単位で設定可能です。 |

### 3. 3. 13 AdjustY

縦方向の印刷位置の微調整を行います。

| 印刷指示コマンド | 値  | 説明  |
|----------|--|---|
| AdjustY  | -999～999 (0.1mm)<br>デフォルト値として0が設定されます。<br>使用例)<br>AdjustY =-30 | 縦方向の印刷位置微調整値を設定します。<br>調整可能な範囲は-999～999mm となり、0.1mm単位で設定可能です。 |

### 3. 3. 14 Magunification

印刷倍率の調整を行います。

| 印刷指示コマンド       | 値   | 説明   |
|----------------|---|--|
| Magunification | 10～400 (%)<br>デフォルト値として100が設定されます。<br>使用例)<br>Magunification=50 | 印刷倍率を設定します。<br>設定可能な倍率は10～400%までの整数値で設定可能です。 |

### 3. 3. 15 NumPage

印刷部数を指定します。

| 印刷指示コマンド | 値  | 説明                                     |
|----------|--|--|
| NumPage  | 1～<br>デフォルト値として1が設定されます。<br>使用例)<br>NumPage=10 | 印刷部数を指定します。<br>設定可能な部数は1以上の整数値が指定可能です。 |

### 3. 3. 16 StartPage

印刷を開始するページ番号を指定します。

| 印刷指示コマンド  | 値                          | 説明  |
|-----------|----------------------------|---|
| StartPage | 1～<br>使用例)<br>StartPage=10 | 印刷の開始ページ番号を指定します。<br>設定可能なページ番号は1以上の整数値が指定可能です。<br>『3. 3. 3 Mode』のModeが0の時のみ、使用することができます。 |



StartPageを使用する場合は必ず、『3. 3. 17 EndPage』の指定も行ってください。

### 3. 3. 17 EndPage

印刷を終了するページ番号を指定します。

| 印刷指示コマンド | 値                        | 説明  |
|----------|--------------------------|---|
| EndPage  | 1～<br>使用例)<br>EndPage=15 | 印刷の終了ページ番号を指定します。<br>設定可能なページ番号は『3. 3. 16 StartPage』で指定された値以上の整数値が指定可能です。<br>『3. 3. 3 Mode』のModeが0の時のみ、使用することができます。 |



EndPageを使用する場合は必ず、『3. 3. 16 StartPage』の指定も行ってください。

### 3. 3. 18 StartLabl

ラベルのスタート位置を指定します。

| 印刷指示コマンド  | 値                          | 説明  |
|-----------|----------------------------|---|
| StartLabl | 1～<br>使用例)<br>StartLabl=15 | ラベルフォームの場合に、1ページ内のどのラベルから印刷を開始するかを指定します。左上のラベルを1として、左から右、上から下に数えます。<br>設定可能なラベルスタート位置は1以上の整数値が指定可能です。 |

### 3. 3. 19 PreviewMode

プレビュー画面のボタン表示／動作の指定を行います。

| 印刷指示コマンド    | 値  | 説明  |
|-------------|--|---|
| PreviewMode | 1<br>デフォルト値として設定されています。<br>使用例)<br>PreviewMode=1 | プレビュー画面上に表示されている印刷ボタンを押した場合、プレビュー表示されているページのみ印刷を行います。 |
|             | 2  | プレビュー画面上に表示されている印刷ボタンを押した場合、全ページの印刷を行います。             |

## 第4章 補足

## 4.1 エラーコード

「自動印刷指示の管理」画面で実行履歴ボタンを押すと、自動印刷の実行履歴を参照することができます。

実行結果: エラー(エラーコード)

と表示された場合、以下のエラーコードの内容を参照してください。

|       |  |
|-------|--|
| 0以上   |  |
| 0     | 正常終了しました。                                      |
| -1    | 失敗しました。  |
| -3    | 帳票定義ファイルの指定に誤りがあります。                           |
| -5    | プリンタがオープンできません。                                |
| -9    | メモリが足りません。                                     |
| -20   | 印刷データの指定に誤りがあります。                              |
| -60   | プリンタ関連エラーが発生しました。                              |
| -70   | 帳票定義ファイルエラーが発生しました。                            |
| -99   | 使用できない帳票定義ファイルが指定されています。(ファイルのパスが誤っているなど。)     |
| -100  | JBCCCABC.DLLがロードできません。                         |
| -101  | PPFWGZIP.DLLがロードできません。                         |
| -102  | データ解凍エラーが発生しました。                               |
| -103  | 帳票定義ファイル名指定でエラーが発生しました。(ファイルの拡張子が「def」ではないなど。) |
| -104  | 集計機能と複写紙モードが同時に指定されています。                       |
| -105  | 存在しないフォームが指定されています。                            |
| -106  | FormLinkItemの指定が誤っています。                        |
| -199  | データタイプの設定が誤っています。                              |
| -200  | ダイアログボックスの閉じるボタンが押されました。                       |
| -500  | 印刷指示コマンドエラー                                    |
| -501  | コマンド連携ファイルエラー                                  |
| -502  | コマンド連携メモリーエラー                                  |
| -1002 | 拡大・縮小率の設定が正しくありません。                            |
| -1004 | EndPageの値がStartPageの指定値より小さくなっています。            |
| -1006 | データファイルの操作時にエラーが発生しました。                        |
| -1020 | データタイプの設定が誤っています。                              |
| -1021 | SelectFormの指定が誤っています。                          |
| -1022 | KeyBreakの指定が誤っています。                            |
| -1023 | FormSetModeの指定が誤っています。                         |
| -1024 | 印刷開始ラベルの指定が誤っています。                             |
| -1025 | FormLinkItemの指定が誤っています。                        |
| -1103 | 帳票定義ファイルのオープンに失敗しました。                          |
| -1104 | 正しい帳票定義ファイルではありません。                            |
| -1105 | 正しい帳票定義ファイルのバージョンではありません。                      |

|            |  |
|------------|--|
| -1106      | 帳票定義ファイルの読み込みに失敗しました。                  |
| -1109      | メモリの獲得に失敗しました。                         |
| -1110      | 帳票定義ファイルの項目数が異常です。                     |
| -1112      | 帳票定義項目の読み込みに失敗しました。                    |
| -1113      | 帳票定義ファイルのオープンに失敗しました。                  |
| -1119      | メモリの獲得に失敗しました。                         |
| -1123      | 帳票定義ファイルのオープンに失敗しました。                  |
| -1129      | メモリの獲得に失敗しました。                         |
| -2100      | ラベルフォームですが、集計機能が指定されています。              |
| -2101      | 複写紙出力が指定されていますが、同時に集計機能が指定されています。      |
| -2111      | 通常使うプリンタの名前が取得できません。                   |
| -2127      | 明細項目オブジェクトが定義されていますが、明細範囲オブジェクトがありません。 |
| -2171      | ラベルフォームですが、明細項目オブジェクトが定義されています。        |
| -2172      | ラベルフォームですが、集計型項目オブジェクトが使用されています。       |
| -2173      | ラベルフォームですが、演算型項目オブジェクトが使用されています。       |
| -2174      | ラベルフォームの横枚数の指定が有効な範囲を超えています。           |
| -2175      | ラベルフォームの縦枚数の指定が有効な範囲を超えています。           |
| -2176      | ラベルフォームの横間隔の指定が有効範囲を超えています。            |
| -2177      | ラベルフォームの縦間隔の指定が有効範囲を超えています。            |
| -2190      | 用紙の向きの指定にエラーがあります。                     |
| -2200      | 用紙サイズの指定にエラーがあります。                     |
| -2210      | 用紙の向きの指定にエラーがあります。                     |
| -2220      | 両面設定の指定にエラーがあります。                      |
| -3010      | 部数型に指定された値が有効範囲を超えています。                |
| -3020      | 連番型に指定された値が有効範囲を超えています。                |
| -3060      | 複写紙モードが指定されていますが、次に使用するべきフォームが存在しません。  |
| -3090      | 次に使用するべきフォームが存在しません。                   |
| -3130      | 部数型に指定された値が有効な範囲を超えています。               |
| -3140      | 連番型に指定された値が有効な範囲を超えています。               |
| -5000      | 評価版の有効期限が終了しました。                       |
| 上記以外のマイナス値 | 上記外の内部エラー                              |